

ざ・ちゅうおう ぷれす

2019年11月号 第96号

発行：世田谷区立中央図書館
 世田谷区弦巻3-16-8
 TEL 3429-1811
 FAX 3429-7436

図書館ホームページ（パソコン） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

（携帯） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>

「ざ・ちゅうおう ぷれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。



文字・活字文化の日記念事業「朗読と音楽で楽しむ散歩道」
 を10月6日（日）に開催しました！（詳細は4ページに掲載）





中央図書館カレンダー

11月							12月							1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31					26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29	

開館時間

火～日 10:00～19:00
 月・祝・休日 10:00～17:00

 は、中央図書館休館日です。
 は、17時に閉館です。

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

東急世田谷線を DEEP に探る

今回は区民の足、東急世田谷線を歴史的にかつマニアックに探ってみました。

【世田谷線の営業開始は大正時代】

元は明治に開業した玉川電気鉄道の一路線で、その愛称「玉川電車」が、世田谷線が「たまでん」と呼ばれる由来です。路線の変遷は割愛しますが、戦後は長らく、国道 246 号線上を走る玉川線（渋谷―三軒茶屋―二子玉川園）と世田谷線、砧線（二子玉川園―砧本村）の3路線で路面電車を運行、渋谷―下高井戸間の直通運転もありました。開業時より多摩川からの砂利運搬事業も行なっており、東京市電と渋谷で接続して、関東大震災後の復興作業にも活躍しました。

1969 年（昭和 44 年）に新玉川線（現田園都市線）・首都高速の工事着手にあわせ 2 路線が廃止、世田谷線が残りました。この時期、道路渋滞の元凶として全国で路面電車が廃止されました。世田谷線や都電荒川線は道路上を走らない専用軌道のため存続できた、とされています。

【車両と進化】

現在の 300 系車両は 1999 年（平成 11 年）に登場。全て色の異なる 10 編成が走っています。旧型車両との交代にあわせ、全駅でホームのかさ上げ工事を行い、バリアフリー化を図っています。新車はクーラーの設置が何より嬉しかった反面、乗車定員が増えず乗降も一方通行になり不便を感じたものです。

旧車両の雰囲気は、宮の坂駅の横の保存車両で味わうことができます。これは江ノ島電鉄に譲渡した後戻ってきた旧デハ 80 形です。外見は乗車扉の位置（江ノ電の高いホームに合わせてステップを除去）が世田谷線とは大きく違いますが、車内の印象はほぼ同じです。この他、タマゴ形電車デハ 200 形が川崎市にある電車とバスの博物館に、東京市電乙 2（玉川線に乗り入れ砂利を運搬した電動貨車の流用）が文京区の神明都電車庫跡公園に保存されています。

【昭和初期の地図で発見、幻の駅】

世田谷古地図（昭和 14 年）を開くと、現在と違う世田谷線の姿が確認できます。西太子堂駅は西山駅と称し、七軒町、六所神社前、豪徳寺前という駅が記載されています。宮の坂駅は位置が異なります。さらに詳しい駅の位置は、インターネットの goo 地図（戦後の古い航空写真が閲覧できる）を頼りに調べました。写真には走行中の車両もそのまま写っており、当時は 2 両編成ではなく、単行※1 両だけで運行だった事がわかります。

七軒町駅…松原 1 号踏切の隣にありました。現況は鉄柵で囲われた資材置場です。

六所神社前駅…六所橋踏切の南隣、六所神社の間近にありました。七軒町駅と六所神社前駅が廃止され、中間に玉電松原駅（現松原駅）が誕生しています。

宮の坂駅…元の駅名は「宮ノ坂」。世田谷八幡神社の坂の上、豪徳寺商店街の入口にありました。

豪徳寺前駅…現在の宮の坂駅より少し南にあり、現況は資材置場です。

上町駅…玉川線廃止時に車庫が作られ、下り（下高井戸方面）ホームが現在の位置になりました。

三軒茶屋駅…キャロットタワー建設の前は、駅は世田谷通りの際にありました。

さらに以前は、国道 246 号線上を走る玉川線まで直接線路が繋がっていました。

それでは、廃駅跡を探索してみましょう。(— が航空地図で確認したホーム跡です)

下高井戸方面 (下り)

七軒町駅

七軒町駅跡の上り(三軒茶屋方面)側。配管がホームを避けているように見える。アスファルト舗装の箇所は資材置場。下りホームの痕跡はない(写真左)。

松原駅

六所神社前駅

上り側ホームの跡らしき基礎を植込みの中に発見。

六所神社前駅跡。神社の目の前だった。写真はあたかも駅に電車が停車しているよう。下りホーム側は植込みで痕跡なし。

山下駅

山下駅。旧ホームの低さと、かさ上げ・スロープ設置の様子がわかる。

小田急電鉄

(旧)宮ノ坂駅跡。灰色の鉄柵の箇所の道路が拡幅されており、下りホームの敷地を提供したと思われる。上りホーム側(写真右)は痕跡なし。

(旧)宮ノ坂駅

昔のデハ70形。乗車扉が低い。

(現)宮の坂駅

宮の坂駅横の旧デハ80形。(車体番号は江ノ電時代の601のまま)床は木貼りで、座席はロングシート。夏場は扇風機と窓全開で対応していた。

豪徳寺前駅

豪徳寺前駅跡。下りホーム側は草が繁り痕跡は無い。(写真左下)上りホーム側(写真右下)は柵で囲われ碎石置場となっている。

三軒茶屋方面 (上り)

東京都で保存される電動貨車乙2。中央が荷台。

新旧の車両 ※猫電車は前回企画のもの

今回調べた地域資料等 (いずれも中央図書館に所蔵しています。)

- 世田谷古地図 (昭和14年) 【GA2100】
- 玉電-玉川電気鉄道と世田谷のあゆみ- 【GA6869】
- 玉電が走った街今昔 【GA6869】

参考にしたサイト goo 地図 (<https://map.goo.ne.jp/> 古地図のページ)

第8回 子ども読書リーダー（子ども司書）講座

1日目：7月26日（金）〔砧図書館〕／27日（土）〔中央図書館〕

2日目：7月31日（水）〔各図書館〕



「子ども読書リーダー」（子ども司書）は、本と人との結びつきを手助けするリーダーのことです。毎年、この講座を受講した子どもたちが区内の図書館で本の紹介やおはなし会などで活躍しています。

講座1日目は図書館の本を使って、それぞれ好きなことや気になることを調べる「調べ学習」体験。2日目は自宅から近い図書館で、本の分類記号や図書館の仕事を学んだあと、「おはなし会」で絵本の読み聞かせに挑戦しました。最初は難しそうと感じていた子どもたちも、とても楽しそうに発表や読み聞かせを披露してくれました。図書館の裏側が見られて楽しかったという感想もあり、子どもたちに図書館をより身近に感じてもらうことができました。（67名修了）

図書館ホームページ内「こどもページ」の「子ども読書リーダー」では、今回の講座で子どもたちが調べたテーマや、作成してくれた本の紹介カードを載せています。

*中央図書館では毎月第3日曜日に、「子ども読書リーダーのおはなし会」を開催しています。



「第7回ぬいぐるみおとまり会」

8月28日(水)～30日(金)

今年もぬいぐるみたちが図書館のおとまり会に来てくれました。

くま館長の話によると、集まったぬいぐるみたちは最初はドキドキしているようでしたが、すぐにみんな仲良くなって、図書館の探検を始めたそうです。自分の仲間が登場する絵本を探したり、本の貸出をしたり、絵本の中にかくれんぼをしたり、とても賑やかだったようです。



かみしばい読むよ～♪



おかえり～

お迎えの日、子どもたちは2日ぶりにぬいぐるみとあえてとても嬉しそう。記念の手作りアルバムを受け取り、にこにこ笑ってくれていました。



中高生向け講座

「世界にひとつだけの絵本づくり」

8月10日（土）（参加者10名）

昨年に引き続き、中高生向け講座を開催し、自分だけのオリジナルの絵本を作りました。講師は絵本作家の鶴田陽子さんです。

絵本を作るには、縦書きか横書きか、配置やデザインなど、決めることがたくさんあります。しかし先生によれば、作者のこだわりによって基本は「なんでもオッケー！」なんだそうです。

次は絵コンテを描いて、頭の中にあるストーリーを実際の絵に起こします。慣れない作業もありましたが、その度に先生がアドバイスをしてくれます。

「その表情すごく素敵！」と先生がほめると、みんな恥ずかしそうに喜んでいました。





今年は、俳優の小林聡美さんとピアニストの園田涼さんに出演していただきました。

第一部のピアノコンサートでは、園田さんのアップテンポな曲からクラシックまで多彩なピアノ演奏に心を奪われました。

第二部では、図書館や読書に関する質問を「お題」として、お二人にクロストーク(対談)をしていただきました。お忙しい方々なのに本をたくさん読まれているようで、とても驚かされました。「小林さんは園田さんに、園田さんは小林さんにオススメする本は？」というお題について、小林さんが「横尾忠則さんの『言葉を離れる』(青土社)をおすすめします。」という話に、

園田さんが「文字・活字文化の日記念事業なのに?!」と、ツッコミを入れるという珍しい(?)場面も見られ、楽しいトークを繰り広げてくださいました。

第三部では、5つの作品を朗読と音楽で表現してくださいました(詳しい演目については図書館HPをごらんください!)。小林さんの素敵な声と朗読に圧倒され、朗読に寄り添うような園田さんのピアノに酔いしれ…と、盛りだくさんの公演でした♪ご参加された方からは「好対照なお2人の対談、とても楽しめました。」「あたたかみのある内容で、素敵な時を過ごすことができました。」「心が充電されました」「もっと時間が欲しいと思った」「本を読む大切さを感じました」などのご感想をいただきました。(参加300名)

図書館落語に笑いの渦～第10回読書の秋の講演会～

9月16日(月・祝)

図書館司書の資格を持つ噺家の入船亭扇治師匠をお迎えして開催しました。

登壇した師匠は、わがままな殿様に家来たちが右往左往する古典落語「目黒のさんま」を一席。続いて新作の「貸出リストが恋を語る話」という図書館落語。図書館から借りた本によって恋を伝えるというミステリアスな展開に、会場は笑いの渦に包まれました。

後半はトークの時間。ライトノベルの楽しみなど本についてのお話や、言葉遊び、一目上がりについてのお話などがあり、読書の秋にふさわしい味わいのあるひとときとなりました。(参加100名)



～本が少し読みづらくなった方へ～

リーディングトラッカーをお試しください

リーディングトラッカーは、活字による読書がうまくできない方や、小さい字の資料が読みづらい方のための補助具です。色が付いているので、読みたい行だけに視点を集中して文章を読むことができます。

中央図書館の館内でご利用いただけます。ご希望の方は利用カードをご用意のうえ、1階または地下1階のカウンター職員に、お申し出ください。



図書館レシート(資料確認票)の見方

図書館内の検索機で図書を検索すると、資料のレシートを印刷できます。お探しの本を手早く見つける際に大変便利です。ここではレシートの見方についてご紹介します。(図書資料のレシートの例です)

本の詳細な情報です。タイトル、出版社のほか、著者名やページ数、出版された年月、本の大きさ等が書かれています。
サイズの大きい本は、高さのある最下段の棚に置いている場合があります。

書架——
本が置かれている棚を示しています。詳細は案内板をご覧ください。職員にお尋ねください。

請求記号——
本の背に貼っているラベルの番号と記号です。棚の本は、ラベルの数字順、同じ数字の中ではかな順に並んでいます。

中央の図書で数字の前についている英字は以下のジャンルを示しています。
GA~GD：地域資料
J：児童書
E：絵本
C：紙芝居

所蔵館——
この本を所蔵している図書館を表しています。
「中央」は世田谷区立中央図書館に所蔵がある、という意味です。

「保存庫」と書かれているもの、所蔵館が中央で書架=倉庫のものは、地下1階カウンターにレシートをお持ちください。地下の書庫から本を用意します。

資料確認票

書名 : 世田谷、町村のおいたち-区制50周年記念-
出版社 : 東京 世田谷区区長室広報課
出版年月 : 1982
価格 : 頒価不明
ページ数 : 143p
大きさ : 28cm
書誌番号 : 002651612



所蔵館	状態	書架	請求記号
中央	貸出	地域世田谷	GA2100
梅丘	在庫	2階閲覧室	GA21
世田谷	在庫	地域資料区	GA21
尾山台	在庫	地域資料	GA21
玉川台	禁	地域資料	GA21
代田	在庫	倉庫	GA21
烏山	在庫	倉庫	GA21
下馬	在庫	地域資料	GA21
深沢	在庫	ふかふか	GA21 ぶかぶか
桜丘	在庫	地域資料	GA21
鎌田	貸出	地域資料	GA21
粕谷	在庫	地域資料	GA21
保存庫	在庫	地域資料	GA2100

「保存庫」とは中央図書館地下にある書庫です。
 「禁」とは館内閲覧資料のことです。

世田谷区立中央図書館
 2019/10/03 16:45 作成

禁——
禁帯出の本です。貸出はできません。所蔵館内での閲覧のみ可能です。

状態——
在庫・・・所蔵館にあります。
貸出・・・貸出中で所蔵館に無い状態です。予約して頂くことで取り寄せが出来ます。

図書館職員がおすすめる本

読書の季節です。11月号は図書館職員がおすすめる本を紹介します

『十五少年漂流記』（新潮文庫）
ジュール・ヴェルヌ著 波多野完治訳 新潮社

ニュージーランドの学生14人と水夫1人が船旅中、事故に遭遇して無人島に漂着。そこでサバイバル生活を送る少年たちの「成長」や「友情」を描く物語です。

困難に立ち向かう少年たちのひたむきな姿が身にしみります。



『きつねのおふろ』
国松エリカ作・絵 偕成社

毎日食べられるのは木の実ばかり、うさぎや鳥を食べたくなかったきつねは、お風呂屋を開業して動物をおびきよせようとするが…。

秋も深まってお風呂が恋しくなってくる頃読みたくなる絵本。計略に失敗して自らお風呂に入ってくつろぐきつねの表情が◎。



『冒険考古学 失われた世界への時間旅行』
堤隆著 北住ユキ画 新泉社

イマドキ中学生が時空を超えて原始生活を体験する。旧石器人の暮らしが考古学に基づいて描かれているというからおもしろい。4万年前の人類も現代人も同じホモサピエンス。友情だって生まれるし、恋だってする。

遺跡現場で昔と今がリンクするほんとなファンタジー。



『図解忍者 (F-FILES No.050)』
山北篤著 新紀元社

TVアニメや漫画で活躍し、子ども達を魅了した忍者。忍び道具や奇抜な術に憧れたものです。この本は大人になったあなたのための忍者図鑑。100の単語を解説し、忍者の世界を広く手軽に学べます。

本格的に忍者を目指す方には忍術書の集大成「完本萬川集海」(国書刊行会)もお薦め。



『草の花』（新潮文庫）
福永武彦著 新潮社

初めてこの作品に出会ったのは高校生の時。美しく瑞々しい日本語に魅了されました。一見甘美な悲恋小説のようですが、福永作品のテーマ「愛と孤独と死」を厳しい目で追求した芸術性の高い小説です。

秋の夜長に、味わっていただきたい一冊です。



『幼ものがたり』
石井桃子作 吉井爽子画 福音館書店

この本は、著者が幼少期を過ごした約100年前の日々について書かれています。日々の様子や年中行事について詳細に書かれており、著者の記憶力に脱帽すると同時に、当時の生活感も見事に表現されています。

100年前の日本の空気に触れてみてください。



『さようなら、オレンジ』
岩城けい著 筑摩書房

太宰治賞、大江健三郎賞を受賞したこの作品は、祖国を離れ、異文化の中で生きる2人の女性の物語です。そこには喪失と再生が描かれています。読み進むうちに、彼女達を友人の様に応援していました。

タイトルの意味は終盤に明かされます。



『虚数はなぜ人を惑わせるのか』(朝日新書)
竹内薫著 朝日新聞出版

すでに中学生の時につまづいていた数学。虚数(2乗して-1になる数)の出現は自分の中で全く納得できず、数学との訣別を決定的にしました。それから数十年。虚数が実は、数学の世界はもとより日常の中でも不可欠と知ることとなりました。印象深い書です。





図書館からのお知らせ♪



家庭読書の日記念講演会

「読書とわたし&ものがたりライブ」

杉山亮さん（児童文学作家）の講演会です。

前半は大人も楽しめるものがたりライブ（おはなし会）、後半は一般向けの講演会です。

日時：12月7日(土)午後2時～4時15分

会場：教育センター3階「ぎんが」

申込：先着120名。

受付はせたがやコールへ。

※詳細は「区のおしらせ11月1日号」や図書館で配布中のちらしをご覧ください。

図書館活用講座（中級編）

三省堂国語辞典編集委員、飯間浩明さんに言葉について幅広く語っていただきます。

日時：令和2年3月7日（土）

午後2時30分～4時30分

会場：教育センター3階「ぎんが」

申込：先着100名。

受付はせたがやコールへ。

※詳細は「区のおしらせ令和2年2月1日号」をご覧ください。

学びのプレゼン（展示会）

今年度の「学びのプレゼン」は、図書館の本を利用、参考、ヒントに製作した作品を募集しました。工作や絵などの作品を、中央図書館内に展示します。ぜひ見に来てください。ご来場をお待ちしています。

展示期間：令和元年12月1日（日）～令和2年1月10日（金）（開館時間内）

会場：中央図書館1階

※期間中、来館者の投票により上位作品を3点選んで、講演会（令和2年1月25日（土）に開催予定）で表彰します。詳細は、図書館で配布予定のちらしをご覧ください。



クリスマスおりがみ会

日時 12月14日（土）

午前11時～11時45分

対象 小学生（小学生未満は保護者同伴）

会場 教育センター3階「おおぐま」

クリスマスおはなし会

日時 12月21日（土）

午後3時30分～4時10分

対象 3歳から

会場 教育センター3階「おおぐま」



あるドラマの一場面。レストラン採用面接の場面で主人公はこう言っています。「パティシエになったのは偶然なんです。古本屋でなにげなく手に取ったのがフランス菓子の本だったんです。ヒヨコに関する本だったら、ヒヨコの鑑別をしていたかも。」

図書館でもこんな出会いがあつていいと思います。ふらっと入った図書館でふと目についた背表紙の文字。本を開いてみたら、今後の生活に変化をもたらす何かが書いてあるかもしれません。ドラマのように「職業選択」という大きな決断でなくても、新しい趣味や習慣を始めるなど、明日からの生活をちょっと豊かにしてくれる出会い。

たまには心を空っぽにして図書館の書架をながめてみてはいかがでしょうか。